

せんだん学習活動案

平成12年6月20日(火)第3校時
太田市立九合小学校 4年2組 27名
指導者 須永逸郎

授業の仮説

見学や体験を通して驚いたことや気づいたことを交流し、そこからでた問題点を掘り下げていると、子どもたちは自分の取り組みたい課題を持つことができるであろう。

題材名 「ふれて 考え 取り組んでいこう 私たちのゴミの問題」
－ ゴミ問題解決大作戦 －

題材について

1 児童のすがた

6月6日に子どもたちは清掃センターを見学した。見学後の校外学習のしおりを見ると「ゴミを処理するのに1年で15億円もかかるなんてびっくりした。」「清掃センターで24時間ゴミを燃やし続けているとは知らなかった。」「ゴミを減らさなくちゃ!」などの感想が出されていた。どの子も今のままではまずいといった捉え方をしていた。中には、「燃えた灰を長野県まで捨てにしているとは知らなかった。もし、長野県の人に断られたらどうなるのだろう。」という危機感を持った児童もいた。

9日には、アルミ缶のリサイクルに関するビデオを視聴した。「アルミ缶だけでなく自動車やビデオの部品に変わるとは驚いた。」「ボーキサイトからアルミをつくるにはお金がたくさんかかるけど、リサイクルすればお金がかからない。」「リサイクルってすごい。」などの意見が出された。リサイクルの良さを実感することのできた児童が多かった。

本学級の児童(4年2組 男子11名 女子16名)は、元々ゴミの問題に関心が高かったわけではない。学級での様子を見ても自分の大事なものは大切に使うが、そうでないものに対しては粗末に扱ってしまい安易に捨てている様子が見えられた。6月2日に行ったアンケート調査でも、ゴミを捨てる時に気をつけることがなかったと答える児童が多かった。また、具体的に気をつけることを書けた児童でも、燃える燃えないで分けるとか、曜日間違わないようにするなどゴミの出し方については意識が高いが、ゴミを少なくしようという意識までには至っていなかった。ゴミの問題についても、知らないと答えた児童が、半分以上いた。具体的に答えられた児童でも、カラスが袋から出してしまったり汚くなるとかポイ捨てが多いとかまだ見た目の状況にとらわれており、ゴミ減量化の問題やダイオキシンの問題などに目を向けている児童はわずかであった。

そこで今回の活動を通して、子どもたちがゴミの問題について少しでも関心をもて、自分たちの生活を見つめ直すようにしていきたいと考えた。清掃センターの見学では、ゴミの多さによって多くの税金が無駄になっていること。そこで働いている人たちが24時間体制で勤務していること。燃やしたゴミを太田市内ではなく長野県まで捨てにしていることから子どもたちの問題意識を十分に引き出せると考えた。そして、いくつかのリサイクルに関するビデオを視聴することによって、問題の解決策を子どもたちなりに広げていけると考えた。

本授業では、こうした子どもたちの問題意識を授業で取り上げ、生かし、「自分たちがゴミの問題を解決するためには、どうしたらよいのであろうか。」という意識を共有したい。そして、一人ひとりのアイデアを出し合うことによって、自分なりの解決方法も明確にし、自分の生き方を見直す活動へと結びつけていきたいと考える。ゴミの問題の原因が私たちの生活にあり、その解決への道も私たち自身の中にあることを気づかせていきたい。

2 教師の願い

現在、私たちの身の回りは便利なものであふれ、それらの製品が大量生産、大量消費、大量廃棄されている。そのため様々な環境問題が引き起こされ、動物や植物そして私たちの生活までが脅かされている。これらの問題の原因は、私たちの便利さを求める生活によるものであり、私たち自身の生き方を考え直さなければ解決できない問題である。児童は新聞やテレビのニュースなどから、さまざまな環境用語は耳にしているが、それが人間にとってどういう問題なのか、原因は何なのか、解決するための方法はあるのか、ということをも自分なりに考えるまでには至っていない。児童が自分なりに考えるためには、まず、体験を通じた自分なりの発見や驚き、問題意識がなくてはならないと考える。

そこで、今回の活動ではまず自分たちの地域を見直すことから始めた。太田市では燃えないゴミを清掃センターに出しているが、まだまだ使えるものもたくさんある。そしてこれらを、始末するために、1日に500万円もお金をかけているという。こうした事実は子どもたちの心を大きく動かすと考えた。そしてリサイクルについて調べたり、アルミ缶を回収したり、牛乳パックの再生を試みたり等の多様な活動につながると考えた。児童が自分たちの問題意識から学習活動を主体的に追究していくことはとても意義のあることと考える。また、そうすることが子どもたち自身の生き方を考え直すきっかけにもなると考える。今回、この学習を設定することにより、児童が自分たちで体験しながら情報を集め、考えながら整理し、自分たちでできることを考え地域のバザーに参加していくことにより、みがき合い支え合う子どもに育つことができると考え本学習活動を設定した。

目標

清掃センターや地域のゴミステーションの見学を通して地域のゴミ問題について関心を持ち、自分たちのやってみよう方法で課題を追究したりわかったことを整理したりしながら、ゴミの問題に関わっていこうとすることができる。

本活動に関連した教科内容

国語科

- ・様々な方法で調べたことを、表現を工夫して話したり書いたりして伝えようとする。
関心・意欲・態度
- ・調べたこと、メモや資料を生かして、中心点のはっきりした話し方や書き方で相手に伝えることができる。
表現
- ・説明の要点を書き留めながら話の内容を正確に聞きとったり、資料の大事な事柄をまとめたりしながら読むことができる。
理解
- ・表現したり理解するしたりするために、必要な語句について理解するとともに、接続語など既習事項の使い方に習熟することができる。
言語事項

社会科

- ・清掃センターの様子を意欲的に調べ、発見したことをメモすることができる。
- ・環境を守るための取り組みについて、自分の経験とつなぎながら調べることができる。
関心・意欲・態度
- ・見学や観察、インタビューを通して、自分が収集した資料や、図書資料からゴミを減らそうとしている努力工夫を考えることができる。
思考・判断
- ・ゴミ処理の仕組みや工夫を調べ、それらを絵や文にまとめわかりやすく発表することができる。
理解・表現
- ・自分の願いを見やすく工夫して、ポスターにかくことができる。
資料活用、表現

活動の構想

ゴミ問題解決大作戦

過程	日時	活動	つきたいカ	活動形態
ふれる 7	6/2 (1) 6/6 (4) 6/9 (1) 6/15 (1)	ゴミの問題に関するアンケート調査 清掃センターの見学 ・ゴミの多さを実感する。 ・気づいたことや驚いたことをワークシートに記入 上原隆史さんの話を聞く。 ・センターで困っていること、市民へのお願いの話 アルミ缶リサイクルに関するビデオを見る。 近くのゴミステーションを見たりして、気づいたこと や調べてみたいことをワークシートに記入する。・	ア キ ケ セ	一斉 地区別 グループ
つかむ 6	6/20 (1) 6/23 (1) 6/30 (1) 7/7 (1) 7/14 (2)	○驚いたことや問題に思ったことを出し合い、解決方法を話し合う。 本時 ○各自の課題を決める。 ○各自の課題の見直しをする。 ○同じ課題を持つ児童でプロジェクトチームを作る。 ○プロジェクトチームごとに仮想インターネットや書籍を使って、見直しを持ち、学習計画を立てる。	ア ウ ア ア エ サ	一斉 個別 または グループ
追究する 8	9/8 (2) 9/22 (2) 9/29 (2) 10/6 (2)	テーマ学習 自分の課題に沿って活動する。 予想される活動 ・生ゴミを土にする。 ・牛乳パックで和紙づくり ・アルミ缶回収 ・フリーマーケットに出す ・ダイオキシンについて調べる。 ・ゴミを捨てないように看板をつくる。 等	イ エ オ キ ク ケ ウ コ サ	グループ または 個別
まとめる 9	10/13 (2) 10/20 (2) 10/27 (2) 11/? (2) 12/1 (1)	○追究したことをまとめ、発表の準備をする。 資料づくり 発表原稿づくり 発表練習 ○地域のバザー 追究したことを地域の人たちに発表したり、ゴミからつくったものを売ったりする。 ○まとめ これまでの活動を振り返り感想をまとめる	ウ エ カ サ ウ カ キ ケ サ シ ス ソ	グループ または 個別 全体 個別

身につけたい力

(1) 活動への意欲

- ア 地域のゴミ問題に関心を持ち、自分なりの課題をつかむことができる。
- イ 自分の課題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。
- ウ 自分の気づきや願いを、自分なりの方法で他の人に伝えようとする事ができる。

(2) 学び方

- エ 見通しを持って、自分なりの活動の計画を立てることができる。
- オ 多様な収集方法（インターネット、本、人に聞く）で、幅広く情報を集めることができる。
- カ 集めた情報を相手にわかりやすく表現することができる。
- キ 目的に応じてメモを取ったり、インタビューしたりすることができる。
- ク 活動の時間を守り、安全に気をつけて活動できる。
- ケ 時と場に応じたあいさつや言葉遣いができる。
- コ 活動に必要な道具の使い方を知り、安全に手際よく使用できる。
- サ 友だちと協力し合って活動できる。

(3) 生き方

- シ いろいろな人に働きかけ、ゴミの問題を解決しようとする。
- ス 学んだことを自分の生活に生かすことができる。
- セ ゴミを処理し、地域の環境をよりよくしようとしている人たちに感謝する心を持つ。
- ソ 自分の活動を振り返り、自分の成長やよさを自覚できる。

本時について（*本時は全30時間中の8時間目）

(1) ねらい

- ・ゴミステーションや清掃センターを見学しての驚きや気づきを発表し合い、自分なりの課題を持つことができる。

(2) 展開

児童の活動	教師のかかわり 全体への支援 個への支援
1, 代表の児童がゴミについて気づいたことを発表する。	見学して、特に問題意識を強く持った児童が自分の意見を生き生きと表現できるように、デジタルカメラや、ビデオなどを使用できるようにしておく。
2, 見学して驚いたことや気づいたことを発表する。	<p>全ての児童が発表でき、気軽に意見交流できるように、学級会の形態で話し合いを行う。</p> <p>司会者と事前に、みんなの思いを共有し合うためにどんな手順で話を進めるか話し合っておく。</p> <p>児童一人ひとりが生き生きと発表できるよう、話し合いの柱は事前に予告しておく。また、各自のワークシートに目を通しておく。</p> <p>いろいろな角度から、問題点が出せるように、自分の観点、清掃センターのおじさんの観点、太田市民としての観点についても考えさせる。</p> <p>具体的な解決策に結びつけるためにも、抽象的な問題点ではなくできるだけ具体的に問題点を発表させる。</p> <p>例 ゴミが多い。 生ゴミが多い。</p> <p>出された問題点はすべて、共感的に受け止め、みんなで共有していく。</p>
3, 出された問題点を見て、もっと調べたいことややってみたいことを出し合う。	<p>出された問題点とをうまく結びつけられるように、板書の仕方を工夫する。</p> <p>自分がやってみたいことやもっと調べたいことを短冊に書かせ、黒板に掲示する。</p> <p>子どもたちから出された方法は類型化していく。</p> <p>予想される方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミを土にする。 ・牛乳パックで和紙づくり ・アルミ缶回収 ・フリーマーケットに出す 等 <p>実際に活動できるよう手順や準備するもの等を子どもたち問いかけ、具体化していく。</p>
4, 活動の仕方、調べ方、次時の予告を聞く。	<p>子どもたちが自ら進んで、調べ活動できるように本やインターネットでの調べ方、地域の人へのインタビューの仕方などの話をする。</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの問題に関心を持ち、自分なりの課題を持つことができたか。

資料

(1) アンケート結果

6月2日に、ゴミの問題に対して子どもたちがどれくらい問題意識を持っているか調査した。結果は以下の通りである。
(4年2組 男子11名 女子16名 計27名)

あなたがものを使うときに気をつけていることは何ですか。

大切に使う・こわさないようにする 19人 特になし 8人

あなたはものがこわれるとどうしますか。

直す 19人 部品を他のものに使う 1人 家の人に言う 2人 捨てる 5人

あなたがゴミを捨てるときに気をつけていることは何ですか。

別がない 6人 いるかいないか考える 5人 燃える燃えないで区別をする 4人
出す曜日を守る 4人 袋からはみ出さないようにする 4人 ポイ捨てをしない 2人
少なくする 2人

ゴミの問題について知っていることがあったらいくつでも書いてください。

知らない 16人 袋から出て汚い 6人 ポイ捨てが多い 2人 リサイクル 1人
ダイオキシン問題 1人 ゴミが多すぎる 1人

それは、なぜいけないのですか。

無答 16人 持っていく人が大変 5人 汚くなる 4人 自然や体に悪い 2人

その問題が起こったわけはどうしてですか。

無答 22人 人が何でも捨てるから 2人 食べ残しが多いから 2人
ポイ捨てをする人が多いから 1人

その問題をかいつするには、どうしたらいいですか。

無答 16人 みんなに注意を呼びかける 5人 ゴミを減らす 5人 リサイクル 1人